サミット会議

（テーマ）

「歴史的地域資源を生かしたまちづくり」

（司会）

サミット会議は、雪舟ゆかりの地の自治体のトップ、すなわち市長さん、町長さんによる会議です。それぞれの町の近況報告、そして共同事業への取り組みが話し合われ、今後、末永い友好と交流を誓ってサミット宣言が採択されます。

雪舟が縁で結ばれた各自治体の最近の取り組みを聴講いただきながら、はるか五百数余年前、雪舟が思いを寄せた縁の地への理解を深めていただければと思います。

では最初に、五十音順で各自治体の近況を報告していただきましょう。それでは大分県大野町の後藤欣明町長さん、よろしくお願いいたします。

（後藤町長）

皆さん、こんにちは。私はただいまご紹介をいただきました、大分県の大野町長の後藤でございます。昨年の１１月に再任されまして、町長としてこのサミットは初めてでもございます。平成１１年の１０月には島根県でございましたが、その時は私も当時、議長として参加をさせていただきました。何とぞ、よろしくお願いいたします。

第８回の雪舟サミットでは、益田市長さんをはじめ、益田市の皆さん方には大変お世話になり、誠にありがとうございました。また、本日は第９回の雪舟サミットをここ山口市で、３市３町の関係者の皆さん方が一同に会して、こうして盛大に開会されますことを、心からお祝いとお喜びを申し上げます。特に地元、山口市長さんをはじめ、今回のサミットの開催にあたり、日夜御尽力をいただきました関係者の皆さん方に心から感謝を申し上げ、明日までの２日間、大変お世話をおかけすると思いますが、何とぞ、よろしくお願いいたします。

さて、サミットも平成９年、第７回から２巡目の開催であり大野町のことにつきましては、すでに皆さん方も御承知のことと思いますが、概要につきまして御紹介を申し上げたいと思います。

大野町は大分県のほぼ中央部に位置し、面積は１０９．４９平方キロメートルであります。面積の７０％が山林で、県都大分市までは約４０キロありおよそ１時間でございます。

昨年の国勢調査の結果、人口は５,５３３人、世帯数１,８９２戸であります。農業を基幹産業とし、主として葉たばこ、稲作、施設野菜の栽培が中心であります。農業粗生産額は、平成１２年度で３５億５,３００万円であります。県下では、５８市町村ありますが、その中で１４位にランクをされております。その中で葉たばこの生産額につきましては、昨年は１３億７,５００万円で第１位を占めております。

また、交通体系といたしましては、平成８年度に人員輸送が可能となりました県央空港があります。以前は、農道

空港でございましたのが、新たに人員輸送できるようになり営業させていただいて、年々利用者も増加しております。今後におきましては、この人員輸送が定期便の運行が可能になるように、県、国土交通省に働きをかけてまいりたいと考えております。

陸路につきましては、町内を縦横断をする県道、６路線があり、平成７年には中九州横断地域高規格道路の整備区間として指定をされ、平成１９年度の開通に向けて、現在整備中でございます。

空と道の高速体系がさらに充実し、「２１世紀の飛躍をめざした、人も元気、自然も元気という交流の里大野」の、まちづくりに鋭意努力をしているところでもございますが、次に町の特産物につきましてご紹介をいたします。

先ほど申し上げましたように、農業の中心の町でもありますが、特産品は主として農産物が多く、販売額は１３億円の葉たばこをはじめ、ピーマン、かんしょ、里イモ、スィートピー、豊後牛があります。また、近年、水耕三つ葉やパセリの施設栽培により、年間３億円以上を超えるような生産高もあげております。

農産物の加工品といたしましては、大野町産の大豆で、製造している「えぼし味噌」、かんしょを材料とする「養老めん」、さらに昨年４月、大野町で開催された第５１回全国植樹祭にあたりまして、全国から御来町いただきました１２,０００人の皆さん方に記念品として差し上げました竹炭、竹酢液等もございます。これらは全て、わが町の特産品として市場や町の直販所等で販売しております。御来町の節には、ぜひとも御賞味いただきたいというふうに思います。

次に町の観光名所、旧跡についての紹介でございますが、まず、皆さん方も御承知のように、雪舟ゆかりの地であります沈堕の滝をはじめ、大野町の歴史を語るには欠かすことのできない大友氏ゆかりの勝光寺、常忠寺、浄水寺があります。

また、遺跡として明和２年に岩壁に刻まれた落水磨崖仏や、南北朝時代に掘られた作品と伝えられております木下磨崖仏があります。その他にも遊覧飛行が楽しめる県央空港や、ダム周辺を整備した師田原ダム公園もあり、シーズンには多くの観光客で賑わっております。

次に、現在大野町が取り組んでおります主要事業につきましてご紹介します。平成８年度から役場所在地であります町の中心部、７８ヘクタールを平成１７年度完成に向けて、公共下水道事業を実施中であります。総事業費１０億５,０００万円、処理人口にいたしまして１,６００人、本町のおよそ３０％の人が加入となります。また、公共下水道の水量確保のために、新たにボーリングと合わせて、老朽化した配管等の布設替えを実施しております。

町民の、より豊かな住環境の整備に向け、推進中であります。次に町中心部のバイパス周辺整備事業でありますが、この事業は、先ほど申し上げました、県都大分市と熊本市を結ぶ中九州横断規格道路整備が進められており、平成１９年度を目標に、大分市から大野インター間が開通する計画であります。併せて、大野インターから町中央部を横断する国道５７号線を結ぶバイパス道路の整備を計画しており、約１２億の予算でこのバイパスの道路周辺に３．８ヘクタールに個性的な交流の拠点施設や、新商業集積地の開発準備をしております。

交流施設といたしまして、物産館、文化クラフト館、食彩館等の施設整備をする計画であり、１９年度の中九州横断規格道路の開通に合わせて完成をさせる計画であります。現在、用地買収を終了し、本年度から事業実施に着手する予定であります。

次に町の歴史・文化につきまして申しますが、大野町は約４００年間続いた大友氏の発祥の地と伝えられ、大友氏にまつわる多くの物語や、史跡が残されております。

その１つに、南陽山勝光寺があります。鎌倉時代、豊前、

豊後の国主、大友能直が１２２０年に隠居所として営みましたが、３年後の１２２３年に没し、その子、親秀が寺を建立、現在に至っております。能直の墓石は、この勝光寺から約３００メートル離れた常忠寺の境内に立てられていると伝えております。大友家は２１代目の宗麟の時代に全盛期を迎え、中国地方の毛利氏、あるいは九州南の島津との交戦、和議を結んできたと伝えられております。

雪舟は、この大友時代の１５代目当主、親繁の時代、１４７６年頃、旅の途中にこの大野の里に立ち寄り、「鎮田瀑図」を描いたと伝えられております。

おわりに、雪舟ゆかりの沈堕の滝につきまして御紹介をいたします。大野町には画聖雪舟が鎮田瀑図を描いた沈堕の滝があります。高さは１７メートル、幅は１１０メートルの雄滝と、高さ１８メートル、幅４メートルの雌滝の２瀑からなり、豊後のナイアガラと呼ばれて、雄渾な景観であり、滝壺の深さは１１メートル以上もあると伝えられております。最近では、この沈堕の滝を訪れる観光客も、県内外を問わず、年々増加し、本町の観光スポットとなりつつあります。

また、沈堕の滝を主会場に、雪舟にちなんだ取り組みといたしまして、雪舟まつりが毎年１０月下旬に開催をされております。この祭りは、南部校区のちんだ滝の会を中心に、会員２９７名が地域振興と観光促進を目的に毎年開催し、今年で第８回を迎えております。本日、会場に会を代表して約４０名ほど参加をさせていただいております。

また、昨年は映画監督の大林宣彦先生をお招きいたしまして、「人と自然の共生」と題して、「ミレニアム対談」や「文化の香る安らぎの沈堕の里づくり」というテーマで、郷土芸能をはじめ、水墨画や絵画の展示の発表を行いました。

祭りのスケールも年々大きくなり、町といたしましても、今後の地域振興、観光振興に大きな期待をしているところでもあります。

それから毎年、１１月初旬に雪舟・玉隲ふれあい文化展を開催しております。これは水墨画の体験交流を行い、体験を通じて水墨画の魅力に触れていただき、好評をいただいております。

先ほど、町の特産物のところで若干申し上げましたが、昨年４月の２３日、天皇皇后両陛下をお迎えいたしまして、第５１回の全国植樹祭開催の折り、両陛下の昼食会場となりました中部小学校におきまして、町内小中学生や一般の水墨画の展示会を併せて、水墨画愛好会の皆さん方、そして小中学生による水墨画の実技を天皇陛下にご覧いただき、本町の水墨文化に新たな歴史を刻むことができましたことを報告申し上げ、大野町の概要の御紹介といたします。誠に御静聴ありがとうございました。

(司会)

大野町、後藤欣明町長、大変ありがとうございました。

続きまして、福岡県川崎町の元永高美助役さん、よろしくお願いいたします。

(助役)

皆さん、こんにちは。紹介をいただきました助役の（元永）でございます。本日、町長が公務出張中でございますので、代理出席ということでさせていただきました。１０分間程度の町の現況につきまして、御報告なり、御説明をさせていただきたいと思います。

まず、川崎町ですけれども、北九州の小倉という駅がありますが、この小倉からＪＲ日田英彦山線というのに乗りまして、約１時間の所に位置をしております。

町の概要でございますけれども、面積で言いますと３６．１２平方キロ、人口が約２万人ちょっとですが、世帯数で約7,８００。あまり大きくない町ですけれども、この川崎町につきましては、旧産炭地ということで、一時期、人口が４万3,０００人を超えた時期がございました。そういう中で国の政策、エネルギー革命等がございまして、そ

の後過疎ということに。過疎の町になりまして、現在、先ほど言いましたように２万人強の町でございます。

周囲が自然豊かな山に囲まれた町でございまして、３０年代までは石炭の町でございましたけれども、現在では、石炭の後遺症と言いますか、国の１つの政策の中で産炭地域の振興計画というのがありますが、その中で３０年代後半からのひとつの、石炭と関わった、我々は「制度事業」と言っておりますけれども、特開開就緊就失対事業というようなことで、そういった国の事業によりまして、かなり、当時は８００近い、そういった炭鉱関係者の失業対策事業がございましたが、現在ではそれぞれ失対事業、あるいは緊就事業と、それぞれの事業がなくなりまして、今では関係者が３５０名ぐらいということになっております。

最近は、国が法の期限を切りまして、かなり厳しいそういった状況にある町でございます。

川崎町の特産品ということでございますけれども、「川崎ふるさと便」というのがあります。これは町の農協婦人部等が、それぞれ米、麦、あるいは地元の農産物等を使って、味噌だとか、それからチップですね、梅干し、それからいろいろジュース関係ですね、そういうのを作りまして、ふるさと便ということでデパート等に卸しまして販売をする。あるいは、また特産品としましては、イチゴ、ブドウ、ナシですね。それから野菜につきましては、ダイコン、キャベツ、タケノコと、こういったものですね。

それから、亀蜜というのがございますが、これは本日このサミットにも出席をしておりますけれども、「藤江氏魚楽園」というのが、雪舟さんの、いわゆる魚楽園でございますが、その所有者の藤江さんの所で、蜂蜜の中にスッポンのエキスが入っておりまして、体が元気になるというような。それと、お酢ですね。これはテレビ等でよく流れておりますが、こういったものが特産品として現在あります。

先ほどちょっと説明をしました、川崎ふるさと便ということですね。これは、農協婦人部の有志の方々が、農協を中心にしまして、梅干し、それからチップ、お菓子ですね、こういったものを作りまして、セットにしまして、お土産、あるいはその他、お中元等に利用していただいておるということで、現在、年間２－３０００万の売り上げがあるということでございます。

観光名所等でございます。先ほど言いましたように、藤江氏魚楽園というのがございます。これは、春夏秋冬、春は桜、秋は紅葉、しかも山をバックにしておりまして、魚楽園、雪舟さんが築庭した、いわゆる国指定の名勝庭園でございます。

魚楽園という名前、これは仏教の経文の中から「魚楽しければ、人また楽し」というような、そういう中から取られた名勝のようでございます。

それから、「英彦山湯一遊一共和国」。これも本日、国王が来ておりますが、従来から「サミットにはぜひとも」ということで、熱意を持って参加をしていただいております。川崎町に誘致企業として十数年前に来まして、一生懸命に町の活性化、あるいは、また観光あたりに力を入れて、特に藤江さんの所の魚楽園とはチームワークを組んで、本日もバスを出していただきました。

川崎町には雪舟さんの顕彰会というのがございます。これは町の議員をしております（桜井）議員が事務局長になりまして、そして会員が２５０－６０名の会員がおりますが、そういった方々といろいろ企画をしまして、町の振興発展のために民間のいろいろ力を結集してやっていただいております。

それから「ラピュタ」というのがありますが、これも、都市と農村を結ぶ、いわゆる都市の方に農村の生活、あるいは経験をしていただく、交流施設ですね。ナシ、ブドウ等の、それから食事もできます。そういったファーム、これを民間で今やっております。

他に町の施設としまして、戸谷ケ岳という所がありますが、標高４００メートルぐらいですが、戸谷ふれあいの森。キャンプもできますし、遠く県外からも毎年、夏にはたくさんの人がキャンプにお出でいただいております。

また、そのすぐ側ですけれども、観光リンゴ園というのがございます。これは、もうオーナーが二百数十名、県外からもおりまして、毎年秋になりますと、リンゴの収穫祭をやっております。そういったことで、観光リンゴ園。

また、黒木という所に淡島神社というのが、ちょっと出ていますけれども、これは子宝に恵まれるということで、かなり県内、県外でも有名になっております。

他に、スポーツ振興のフェザントコースというのがあり

ますが、これはゴルフですね。

この他にも、田原という所に杖楽というのがございまして、これは鎮西八郎源為朝の武勇の、武術のことを、正八幡神社の中で１つの形として残した、県の文化財でございます。こういったもの。あるいはまた、光蓮寺の菩提樹だとか経文も県の有名な名勝としてございます。

先ほどちょっと出ておりました、戸谷自然ふれあいの森が出ております。この中には入っておりませんが、ログハウス等もございますし、下の方に清流がございまして、散策ができるという新しい、リンゴ園と含めましての名勝と言いますか、そういう今。

これがまだ、できまして５－６年というところでございます。次にお願い申し上げます。

川崎町の主要事業ということで、今ここに「ふるさとを愛し、ふれあいのあるまち」ということで出ております。住みよい快適なまち、以下、心豊かなまちづくり、ということで出ていますが、この「ふるさとを愛し、ふれあいのあるまち」ということで、先ほど申し上げましたように、昔は産炭地域。一時期、炭鉱が町内に四十数社ありました。そういう中で、かなり急激な過疎化が進んだということで、人心の面もかなり荒廃した面がありましたので、もう一度ふるさとを見直しをして、心豊かな文化のある香りの高いまちにしようということで、今、取り組みをしております。

先ほどもちょっとふれましたが、国の時限立法の中で、また従来ありました基幹産業というのが農業に中心を置いて。そういったことで、一時期にたばこですね、あるいは梅、こういったいろいろ試行錯誤を重ねながら町の活性化、あるいは、また雇用の創出につきまして、今、いろいろと知恵を出しているところでございます。

また、先ほども言いましたように、それぞれの民間の方が観光資源にもということで、雪舟さんをキーワードにいたしまして、いろいろな事業を民間サイドでもやっております。本日、そのメンバーの方々も、我々町当局とは別に「湯一遊一共和国」からバスを出しまして、二十数名が参加をしていただいております。ほんとに、我々もその熱意には感謝をしているところでございます。

次に、これは川崎町の中心部を上から見た所ですが、手前の白い所、これが町の総合運動公園でございます。ナイター設備もありまして、野球、ソフトボール等をやっております。私もまだソフトボールのメンバーでございまして、５０以上のチームがございますので、週に１回ぐらいナイターでやっております。そういうことで、スポーツも盛んに、施設もかなり充実をしております。

それと、最後になりましょうか、雪舟さんとの関わりということで、先ほどからちょっと話に出てきましたように、荒平という所に藤江氏の魚楽園がございます。先ほどもちょっと触れましたが、仏教の経文の中の「魚楽しければ、人又楽し」という文から付けられたということで、人と自然との、いわゆる調和と言いますか、そういったことを、桃源郷を意味すると。

この点につきましては、魚楽園につきましては、雪舟さんが１４６９年頃だと本には出ておりますけれども、明から帰りました時に、豊前、豊後の方に立ち寄ったと。その時に、この藤江氏の魚楽園を築庭をして、すぐ近くに、隣に添田町というのがございます。国定公園の英彦山を持っている町ですが、ここにも雪舟さんの築庭をした庭がございますが、そういったコースで、多分、川崎から添田、あるいは日田の方へ回ったと、そういうふうにではなかろうかということで言われております。

雪舟さんの行事のこと、さっきちょっと言いましたが、昨年に日中交流水墨画公募展というのをやりまして、中国の方から十数名の女流の水墨画家を招聘しまして、町の公募展をやりました。７００点を超える全国からの応募がありまして、当日は３,０００人を超える人が参加をしていただきました。日本でもかなり有名な代表される、斉藤南北先生等に相談をしまして、今後また２年おきに、この雪舟さんとの関わりのある水墨画によってまちづくりを進めようということで、この雪舟さんの顕彰会の、先ほどちょっと触れましたが、二百数十名の会員がおりますし、私も会員の１人でございますが、そういった方ともまたいろいろ合議をしながら、町の、雪舟さんとの関わりの中で発展をさせていきたいと、そういうふうに考えております。

これは、交流会の時の中国の女流画家の写真でございます。

これは、当日、公開によって、皆さんの前でそれぞれの中国の方、それから日本の先生方に水墨画をその場で描い

ていただいた、その風景でございます。

先ほどからちょっと触れておりますが、雪舟さんの顕彰会ということで、これは雪舟さんの歩いたウォークラリーということで、１つの行事です。それから音楽会等も計画をされております。これも筑前琵琶コンサートということでされております。これ、先ほどちょっと触れましたが、私どもの議会議員でもありますし、この会の世話をしていただいておる（桜井議員）さんが主に、中心になりまして、いろいろ計画、企画を立案されております。

だいたい以上で川崎町の概略説明、１０分間ということでかなり端折ってお話、報告させていただきましたので、まだまだ、ちょっと触れていない所もあろうかと思います。本日また、川崎町からは議会の議長さんも応援に見えております。他に二十数名の方も見えております。そういうことで、本当に雪舟さんのこのサミットにつきましては、また次回は川崎町のようでございますし、どうぞ、皆さん方、先ほどから言いました観光施設もございます。特に「湯―遊―共和国」につきましては町の誘致企業でもありますし、こういった文化面についても、国王自ら率先して協力していただいております。安くて美味しいものが出ますし、サウナ、それからラジウム鉱泉の神経痛とかリウマチにきく鉱泉もございます。どうぞ、ひとつ川崎の方にもお出でていただきたいと思います。

以上で終わらせていただきます。どうもありがとうございました。

（司会）

ありがとうございました。

川崎町から元永高美助役さんでございました。ありがとうございました。

続きまして、岡山県総社市の竹内洋二市長さん、よろしくお願いいたします。

（竹内市長）

皆さん、こんにちは。ただいま御紹介いただきました総社市長の竹内でございます。本日は、佐内山口市長さんをはじめ、山口市の皆様方には大変お世話になります。心から感謝を申し上げます。それでは早速、総社市の近況についてお話を申し上げます。

私どもの総社市でございますけれども、岡山県南に位置して、岡山市、倉敷市に近く、空港にも近く、非常に交通の便が良い所でございます。人口、世帯数、面積は記載の通りでございます。

市内の中央を流れる高梁川に代表される豊かな自然と古備文化の発祥の地として、多くの文化遺産にも恵まれております。本市の特産品でございますけれども、果物王国・岡山の代表でありますマスカットや桃、それから赤飯の元となったと言われております、古代から神々に捧げられた赤米から作ったお酒やうどんなど。また、サトウキビを煮詰めてアメ状にした、とろりん黒砂糖ですね。あと、工芸品としては備中神楽の面などがございます。雪舟にちなんだ、もなかやまんじゅうもあります。

総社市の観光地としては、まず古代吉備王国の名残を止める吉備路風土記の丘を御紹介いたします。吉備路のシンボルであります備中国分寺の五重塔や、全国でも有数の規模の前方後円墳の作山古墳がございます。特に４月２９日に行われる吉備路れんげまつりは、大勢のお客さんで賑わいます。

雪舟さんが修行をした、雪舟ゆかりのお寺であります宝福寺は、地方にはめずらしく大きな禅宗のお寺で、朱色の三重塔がシンボルとなっております。この宝福寺は昨年、県指定の史跡となりました。

鬼ノ城は朝鮮式の古代山城で、近年の発掘調査で全国の注目を集めております。真ん中の写真でございますけれども、桃太郎話の原型にもなったと言われる「温羅伝説」が残る山城でございます。

その他にも、総社の名の由来となった総社宮や、紅葉の

名所・豪渓、そして夏はキャンプで賑わう砂川公園など、歴史・ロマンを感じさせる名所・旧跡がたくさんございますので、ぜひ一度お越しください。

次に、本市の主要事業ですが、本年度から第３次総社市総合計画の後期基本計画がスタートをいたしました。これによって進めておりますが、大規模プロジェクトがここ数年集中しており、厳しい財政状況の中やりくりをして事業を進めているところでございます。

主なものといたしまして、吉備路風土記の丘近くに国民宿舎とタンチョウ公園を備えた吉備路観光センターを建設する事業があります。平成１５年春の開業をめざしております。完成後は、吉備路の観光の拠点になるものと期待をしておるところでございます。

また、総社運動公園整備事業といたしまして、国体を控えた新しい体育館を建設中でございます。平成１７年の岡山国体では、卓球、軟式野球、そしてデモンストレーション競技のゲートボールの会場となりますが、この体育館は完成すれば、県下一のアリーナ面積ということになります。卓球では、公式１２面が取れます。ハンドボールは公式２面が取れるということでございます。平成１４年夏の完成を目指しております。

その他にも市街地、南部を貫く幹線道路、東総社中原線の整備など、これからの基盤整備作りのため取り組んでいるところでございます。

本サミットのテーマというべき、本市と雪舟さんとの関わりを申し上げる前に、簡単に本市の歴史に触れますと、総社市周辺は古代から、吉備の国の中心として栄え、その勢いは巨大古墳に象徴されるように、大和にも並ぶほどの勢いであったと言われております。その後、国府や国分寺などが置かれ、備中国の中心となりました。平安時代末期に備中の３２４社のお宮さんを合祀した総社宮が造営され、この門前町が市街地形成の元となっております。昭和２９年市制を施行し、昭和４７年昭和町を編入合併し、現在に至っております。

本市と雪舟さんのご縁でございますが、雪舟さんは皆さん御承知の通り、本市の赤浜という所でお生まれになりました。この地には、地元の人々により「雪舟生誕の碑」が建てられております。この周辺の約5,０００平米の土地を購入しており、今後、雪舟生誕地公園として整備する計画でございます。

また、雪舟さんが少年時代修行したと言われる、井山宝福寺には、絵ばかり描いて修行しない雪舟さんをこらしめようと柱に縛ったところ、涙で本物そっくりのネズミを描いて和尚さんをびっくりさせたという逸話が残っておるところでございます。

次に、雪舟さんにちなんだ取り組みをご紹介いたします。まず、平成８年から隔年で開催しております、「雪舟の里総社　墨彩画公募展」についてでございますが、昨年３回目となります公募展が開催されました。全国から４６６点の応募があり、非常に質の高い作品が集まっていると、平山郁夫先生をはじめ、審査員の先生方も称賛されておるところでございます。本市では、雪舟大賞、審査員特別賞、特選の３点を毎回買い上げておりますが、市の貴重な財産として皆さんに鑑賞していただくとともに、偉大な画聖雪舟に続く若い作家の励みになればと考えております。本年は平成１４年度開催予定の、第４回公募展の募集を行うこととしております。

毎年、８月の第１土曜に行われます夏祭、雪舟フェスタ市民総おどりについてですが、市民が町に繰り出す総踊りといろいろなイベントで盛り上がります。マスコットキャラクターのネズミの「セッチュウ君」も活躍をしております。

次に、子ども会の主催で行われる「雪舟さんの足跡を訪ねて」の、ミステリー列車でありますが、毎年５月の連休に雪舟さんゆかりの地を訪ね、見聞と親交を深めております。今年は益田市を訪れ、医光寺を見学したり、水墨画を描いたりして楽しんだようであります。益田市さん、大変お世話になりました。

本市では、雪舟さんをはじめ、吉備路、鬼ノ城などをテーマとしたシンポジウムや講演会など、様々な形で開催をしておるところでございます。鬼ノ城一帯は、自然が残された地域ですが、自然と歴史的文化遺産を保持しつつ、活用するため、フィールドミュージアム、野外博物館として城門の復元や遊歩道、休憩所などの整備を計画しておるところでございます。

恵まれた文化遺産と、豊かな自然を活用し、まちづくり

に取り組んでおりますが、今回のサミットで、皆様方の取り組みを伺い、参考とさせていただこうと、このように思っておるところでございます。

最後になりましたが、本サミットを通じて、構成市・町の交流が、ますます深まることと、各市・町のますますのご発展を祈念いたしまして、終わらせていただきます。ありがとうございました。

(司会)

岡山県総社市の竹内洋二市長さん、どうもありがとうございました。

続きまして、島根県益田市の牛尾郁夫市長さん、よろしくお願いします。

(牛尾市長)

皆さん、こんにちは。島根県益田市長の牛尾でございます。雪舟サミットも今回で９回を迎えるということでございますが、私自身は初めての参加ということでございます。どうぞ、よろしくお願いを申し上げます。

また、前回、一昨年に私ども益田市で開催をいたしました第８回サミットの折りには、遠路にも関わりませず、首長さんをはじめ多くの方々に益田へお出でをいただきまして、盛会裏に、そして有意義にサミットを開催することができました。これも、本日ご参加をされておられます皆様方のご協力の賜物と、厚くお礼を申し上げる次第でございます。

それでは早速ではありますが、益田市の紹介をさせていただきます。本市は東西に長い島根県の最西端に位置し、山口県と県境を接しております。この度、ＪＲ山陰本線が高速化されまして、東西、県東西の旅行時間もかなり短縮をされてまいりましたけれども、ご当地山口市とは距離的にも近く、古くからＪＲ山口線で行き来をしてきておりまして、そういった意味でも大変身近に感じているというのが実感でございます。

また、地理的には北は日本海を望み、全長約３０キロメートルにも及ぶ風光明媚な海岸線を成しておりまして、南には中国山地を控え、そこから日本海へ流入する２大河川、高津川と益田川によって形成された三角州状の平野が開けるなど、海と山、川に大変恵まれました自然豊かな環境でございます。

気候は、山陰とは申しますけれども、日本海を流れる暖流の影響を受けて温暖な土地でもございます。

交通面では、市内において国道９号と１９１号、ＪＲ山口線と山陰線が共に交差をして、加えて平成５年には石見空港が開港するなど、石見地域における交通の要衝となっております。

このような環境の中で、本市の面積は約３００平方キロメートルと、県内５９市町村の中でも２番目の広さでございます。人口は、先ほど申しました２大河川による平野部を中心市街地として河川流域沿いに、昨年の国勢調査の速報値では５万１２７人と、わずかながら５万人を上回っているというところでございますけれども、残念ながら、年々少しずつ減少傾向にあるというのが現状でございます。

特産品といたしましては、主に第１次産品となりますが、中でもメロンは県内外からの高い評価を得ておりまして、甘味もあり値段も安いということで大変喜ばれているところでございます。その他では、同じ農産物としてブドウも多く栽培をされております。

水産物につきましては、高津川の清流で育った天然のアユと、その加工品。日本海で採れるアワビ、サザエなどがございます。

また、雪舟の名のついた雪舟焼きという焼物も当地の特産品となっております。

次に観光名所でございます。一昨年のサミットにお越しいただいた方々にはご存じのこともあろうと思いますけれども、いくつか紹介をさせていただきます。

本市におきましては、雪舟にちなんだ名所が主要な観光スポットとなっております。雪舟が庭を作りました庭園でございます医光寺、萬福寺というお寺や、雪舟にゆかりの作品を展示した雪舟の郷記念館がありまして、これらは多くの観光客の方々にご覧いただいているところでございます。

また、益田市は万葉の歌人、柿本人麿とも非常に縁のある地でございまして、人麿を奉る柿本神社や、その周辺に広がる県立万葉公園は、その名の通り、万葉の時代を彷彿とさせるような自然豊かな公園となっております。

その他、日本一小さいということで全国的にも有名な益田競馬場がございます。県内唯一の施設として、本市の特色の１つとなっております。

続きまして、市政の概要について述べさせていただきます。

本市は、昭和２７年８月に益田町を中心としまして、隣接７カ町村を合併し、県内８市のうち４番目に市制を施行いたしました。さらに昭和３０年３月には、周辺５カ村を編入いたしまして、現在に至っております。来年度は市制施行５０周年という節目の年にあたりまして、全市民をあげての記念事業を実施するよう、現在、市民の皆さんに参画をいただいて、検討がなされているところでございます。

近年の本市における主要プロジェクトとしましては、石見空港の開港をはじめ、県立万葉公園、県立石見高等看護学院、県立養護学校の整備が順調に進展をしてきたところでございます。昨年１０月には国道９号のバイパス、益田道路の工事着手がなされまして、平成１６年度には、現在はまだ仮称ではございますけれども、島根県芸術文化センターの開館に向けて準備が着々と進められております。島根県西部及び山口県北部の中核都市としての躍進が大きく期待をされているというところでございます。

この芸術文化センターは、ご当地の山口県立美術館と萩市にございます浦上記念館と今後深く連携をいたしまして、多くの人々が訪れ、交流をできる美術回廊ということで整備を進めていきたいと考えているところでございます。

また、本年３月には２０１０年を目標年次とする、第４次総合振興計画を策定をいたしたところでございます。昨今、私たちを取り巻く社会情勢は急激に変化をしておりまして、少子高齢化、高度情報化、環境問題の顕在化、地方分権の進展など、新たな行政ニーズに的確に、そして迅速に対応していく必要がございます。

このため、この計画では「市民協奏都市・益田　心が響き合うヒューマンシティー」をキャッチフレーズにいたしまして、市民と行政が共同したまちづくりを進めていくことを基本理念としております。そして、益田らしさの溢れる、自然、風土、歴史、文化の中で、人とひと、時代と時代、地域と地域のつながりを大切にすると、そういう姿勢の下、市民１人ひとりが輝けるまちの実現をめざしているところでございます。

具体的には、空港の隣接した工業団地、石見臨空ファクトリーパークへの企業誘致、石見空港の利活用の推進、益田道路及び島根県芸術文化センターの建設促進、循環型社会の創造による資源の有効利用、高齢者福祉の充実、以上の５点を当面の重点目標として取り組んでいるところでございます。

それでは本日、こうして各地の自治体とのご縁を取り持ってくださいました雪舟さんにつきまして、本市との関わり合いなどを御紹介をいたしたいと思います。

雪舟さんにつきましては、有名人であるが故に、各地域によって様々な伝承がございます。話の中で多少御異論があるところもあろうかと存じますが、御了承をいただければと思っております。

雪舟さんは、１４６９年、中国より帰国された後、１４７８年頃に益田七尾城１５代城主、益田兼堯公の招きにより益田を訪問されました。この時に、重要文化財に指定されております益田兼堯像をはじめ、山寺図、花鳥図屏風を描かれております。また、雪舟さんが住職を務められました益田氏の菩提寺でもあります医光寺や三宅御土居という益田氏の屋敷跡に近い萬福寺には、先に申しましたように山水庭を築かれて下ります。

その後、益田の地をいったん離れられますが、１５０２年には再度訪問され、大喜庵というお寺で晩年を過ごされまして、８７歳の生涯を終えられということでございます。

益田市民にとりまして、雪舟さんは歴史上の人物の中で一番愛着のある方でございます。このため、行政、または

地域におきましても、雪舟さんをキーワードに数多くのまちづくり事業を実施しているところでございます。前に述べました、雪舟の郷記念館もその１つでございまして、平成２年に開館をし、益田兼堯像の他、多数の作品を収蔵し、雪舟さんに縁のある日本画等を毎年購入するなど、地域の文化振興に努めているところでございます。

また、雪舟さんが修行されました、天童寺のある中国寧波市とも平成３年に友好交流議定書を締結し、市民訪問団の相互交流、スポーツや文化を通した交流を行っております。本年は締結以来１０周年にあたり、９月末には４回目となる石見空港からのチャーター便による市民の訪問を計画いたしておるところでございます。

市民の皆さんによる取り組みといたしましては、本市には雪舟橋という、雪舟の名を冠した地域がございますが、この地域を含む、古田地区まちづくり推進協議会による雪舟さんまつりや、雪舟顕彰会による雪舟忌法要の開催など、雪舟さんを通じて地域が一体となったまちづくりを行っております。その他、雪舟益田美術大賞展実行委員会による、雪舟グランプリ益田が隔年に開催され、国内外からも数多くの作品が寄せられております。

さらに、本市においては石見神楽が盛んに演じられ、伝統芸能の１つとして、子どもからお年寄りまで、多くの方々に親しまれておりますが、その神楽の演目の中にも雪舟さんが取り込まれて演じられているところでございます。

おわりになりましたが、このサミットの開催にあたりましてご尽力をいただきました地元山口市の佐内市長さんをはじめ、関係者の皆様方、本日は本当に温かい御歓迎をいただきまして、また、このような機会をお世話をいただきまして、心からお礼を申し上げる次第でございます。このサミットを通じまして、今後とも変わらぬ交流のほどお願い申し上げまして、私の話を終わらせていただきます。御静聴ありがとうございました。

(司会)

益田市の牛尾市長さん、どうもありがとうございました。

続きまして、岡山県芳井町の佐藤孝治町長さん、よろしくお願いいたします。

(佐藤町長)

皆さん、こんばんは。もう、お疲れになっていらっしゃるように私、考えますが、少しの時間を頂戴いたしまして、若干芳井町のことにつきましてお話をいたしたいと、かように存じます。よろしく御協力のほどお願いします。

前回まいりました折りには時間がなくなりまして、私がお話する時間がまったくなくなってしまったというようなことでございまして、大変御無礼をいたした経緯がございます。悪しからず、御了承願いたいと存じます。

芳井町、生きがいのある、健康で明るく、心豊かなまちづくりをめざして頑張っておるところでございます。今日、一緒にこの山口市へお邪魔させていただいておりますのが、私の方の山口議長、田辺副議長、小坂教育長、高橋振興課長、中山振興課の主事という顔ぶれでお邪魔いたしておるところでございます。

合併いたしましたのが、昭和２９年の合併促進法によりまして、芳井町、それから３村が合併いたしまして、その当時の人口が１万2,３５６人、今日現在では6,２００人余りというような非常に寂しい状態になっておりますことを御報告いたしまして、私も寂しさをしみじみと感じておるものでございます。

さて、その当時から申し上げますと、あれやこれやと、今日は議会の正副議長さんおられますけれども、今日はそう喧しゅう言われませんけど、町の方へ帰りますと「おい町長。あれもせい、これもせい。なんちゅうことだ」とお叱りを受けることは、もう覚悟いたしております。したがいまして、できる限りの予算を通じて、計上いたしましてやる方針ではおりますが、皆さん御承知のように、今日現在、地方分権であるとか市町村合併であるとかいうような話が持ち上がりまして、非常に苦しんでおるというのが現状でございます。

しかしながら、町長は町長なりに執行部を叱咤激励いたしまして努力いたしておるということだけは皆さん、十分御了承をたまわっておきたいと、かように思います。

私の方の面積は今出ましたが、８０．７１平方キロでございます。そのうちで、特産品といたしましては、ゴボウ、ニューピオーネというふうなものがございます。このゴボウは大腸ガンの特効薬となるように保健所の所長も申して

おりますし、私どもの保健婦も絶えずそれを会合で申し述べておるような状況でございます。どうか、必要の向きは芳井のゴボウをひとつ御注文くだされば、担当の課長もおりますので、たくさんお送りいたします。

さて、このゴボウのことにつきまして若干申し添えますが、このゴボウは、実は毎年、私東京へ、隣の井原市の市長さんとお邪魔をいたしておりまして、井原市、芳井町の出身の方の会合が毎年行われております。馬鹿の一つ覚えで、私は芳井のゴンボウばかりお土産に持って行きよりましたところが、まあ１回ぐらいはなんと変わってもええんじゃないか、というようなことを今日来ておる課長が言うものですから、ゴンボウの羊羹を持って行ったところが、「おい町長、羊羹よりゴンボウの方がよっぽどいいど」ということで、１回ゴンボウの羊羹を持って行っただけで、その後はゴボウ、本物を持って行っております。

今日は御婦人の方が少ないようでございますが、私どものゴボウは灰汁が強い、赤土のネバッコの中に生えるわけでございます、植えるわけでございますので、ウリトリに非常に労力を要するということで、一時期は若い者は全部、広島県の福山市の日本鋼管という方へ働きに行きますので、残っておりますのはお母さん方とおじいさん、おばあさんというようなことで、労力を要するゴボウは年々、減って、減って、減りつづけましたところが、前回まで知事を５期お務めいただきました長野士郎という知事さんが街頭へ白い車で来られて、「なんと明治のゴボウは非常においしいのに、どういう訳で減るんかなあ」というような御質問が出まして、農家の人曰く「労力を要するから減るんだ」と言うたところが、ゴンボウを掘り取る機械をわしが試験場でひとつ考案させるから、それをひとつ使ってやってくれ、ということで、うちの方は農家の方みんな安心しておりましたところが、１回作って持ってきてやってもらう、引っ繰り返る、２回、３回、４回、５回目にはようやく芳井の地に似合う、ゴンボウ堀り取り機ができまして、これを１台、初めてじゃからタダでやろう、ということで、ゴンボウ堀り取り機をもらったところが、非常にこれがまた土地に合うということで、このゴンボウの堀り取り機を４台、５台、ただでもらおうと思ったら「そういう訳にいかんよ。１台だけならやるけれども、２台、３台目からは町の方で金をかけてくれ」というようなことで、私、金をかけまして。かけると言いましても、予算計上の時には、ここへおられる議長、副議長、「おい、そがいにゴンボウ堀り取り機ば予算をかけていいんか」と、課長は課長で私に喧しゅう言いますし、正副議長さんもどうもツムジを曲げられるんじゃないかないうような発言も聞きましたけれども、あえてそれを我慢して今日現在に至っております。

幸いにいたしまして、宮内庁出入りの御用商人が芳井町におったわけでありまして、「これはあまりおいしいから、ひとつ天皇陛下に食べてもらおうじゃないか」というようなことで、少しジョウブンに（たくさん）、ジョウブンにという言葉がまた分かりますかいな、たくさん、ひとつ送ってくれ、ということで送って、陛下に食べてもらう前に宮内庁の役人が召し上がっていただいたと。非常にいいから、これは天皇陛下に食べてもらうということで、ずっとお送りしておりますが、お正月のゴボウは雑煮の上にすけて（置いて）食べていただいておりますが、非常に芳井のゴボウは味がいいという好評をいただいております。皆さん方もぜひ、ひとつ私ども課長の方へ御注文を賜れば幸いだと、かように存じます。

７－８年前に、高原荘という農村型リゾートの宿泊施設を作っていただきまして、ここで宿泊を大勢の方に、街の方が来て、これ泊まり込んで、自分で食事をしながら泊まっていただくという施設でございます。高原荘の内観とうまいこと言っておりますが、これは中の状況でございますが、囲炉裏もございますし、畳もありますし、布団もあり

ます。これは、地元の方々が宿泊がある時には、全部、地元の人が出ていただいて、寝巻の洗濯やら、それからお布団のカバーの洗濯やら、全部地元で作って洗濯をしていただいております。それ相応の儲けもあるように、町の方でも考えてやっておりますので、心配はございません。皆さん方の地方にも、こういうふうなものをお作りになると、地元のボランティア、ボランティアばかりで、それに頼るばかりでなくて、少々は収入もあるようにしてあげてくだされば、なおさら非常にいいのではというような感じがいたします。よろしくお願いをいたしておきます。

次に、この銅像は日中友好の架け橋となって、命を懸けて努力されました中国の魯迅さんとか、郭沫若先生というふうな方、政府から追われて非常に危険な目に遇わされた方を命を懸けて、この内山完造という先生がお救い申し上げた。そして一方では、内山書店というのを奥さんが経営されまして、戦争中と言えども、この内山書店は、中国から攻撃を受けなかったというのが、非常に有名な話になっております。５月末には、私もこの内山完造先生の銅像にもお参りし、献花もいたしたところでございます。

ところが、この銅像があまりにも立派だというので、芳井町にもひとつ造れ、というようなお話がございまして、芳井町へもひとつ銅像を造りまして、中国の大使、公使、お招きいたしまして、除幕式もいたしたというような状況でございます。この内山完造先生の顕彰会も発足いたしまして、今ではもう軌道に乗っておるというような状況でございます。

それで、この東福寺という京都のお寺の歴史的な書物の中には、「芳井町の大月山重玄寺という所で亡くなった」ということを記録にあるとされております。

そういう関係から、私が前回の時に、芳井町で亡くなったというようなことを言うたら、佐内市長さんや益田の市長さんが「それは違う、それは違う」とこうなったんですが、御当地の毛利博物館の臼杵館長先生が「偉い人になったら、分骨をするから、どこでも死んだ、亡くなった所はあるんだ」というふうなことを、記念講演をしていただきました経緯がございます。

先ほど益田の市長さんが「石塔はうちにもあるよ」と言われたから、「市長さん、私の方にもありますよ」と、こう申し上げたんですが、佐内市長さんは「お宅には石塔はないんですか」。

まあ、芳井町が会場になりました折りには、ぜひ、この雪舟の石塔へお参りをひとつしていただくことを、今からお願いを申し上げておく次第でございます。

雪舟の終焉の地ということを、前回、私申し上げましたところが、毛利博物館の先生が「かかわり」にした方がいいんじゃないか、ということで、私の名刺にも「雪舟終焉の地」と書いておりましたけれども、これを変更いたしまして、「雪舟かかわりの地」ということにいたしておりますので、あまりお叱りにならないようにお願いをいたしておく次第でございます。

この重玄寺は実は、昭和２８年に全焼いたしまして、跡形がなくなってしまっておるというような状況でございます。残ったのが、この鐘楼門だけでございまして、これを約２キロ下の西吉井という所へ実は移転をいたしまして、新しくお寺も建立をいたしておる状況でございます。

雪舟物語、平成９年３月にはここに。実は、芳井町の町木がモミジでございますので、モミジの木の下を雪舟さんが赤い欄干の橋を歩いておるという状況下の本を作っていただきまして、「雪舟ものがたり」を作っていただきまして、この「雪舟を語る会」を、実は私も会員の１人でございますが、これを続けておるというのが現況でございます。

雪舟さんを拝んでおるとお陰があるかどうかということについては、はっきり私まだ分かりませんけれども、実は私が１６－７歳の時に、この重玄寺というお寺で開山忌というのがございまして、そこでは団子を作って子どもたちや、それからお参りした大人の方々へもバラ蒔いておられた。これがもう非常に楽しい開山忌でございまして、その当時、非常にモチとか団子とかいうものがない時代でございましたので、非常にうれしかったことを記憶いたしております。

また、この会では、町内の歴史的資源を生かした取り組みということで、那須与一を忍ぶ講演会を開催し、琵琶の演奏をしていただくために、芳井町へもお願いをいたしまして、皆さんにお聞き取りを願ったという状況でございます。

それから、芳井町の愛育委員の方、栄養改善協議会の委

員の方たちが、ヘルシーウォークということで、どこの市町村も実施されておることだろうと思いますが、重玄寺を目標に、ヘルシーウォークを開催いたしておるような状況でございます。

何と申しましても、人間の平均寿命は、今日現在、昨年に引き続き、平均寿命は世界一となっておりますけれども、足が弱ってはさっぱり幸福とは言えません。寝たきりになっては幸福とは言えませんので、保健婦を叱咤激励いたしまして、健康づくりということに力を入れておるというのが現況でございます。

山口市さんにおきましては、今日の会場ご提供、いろいろ全般にわたり、市長さんをはじめ、担当の方々のお力添えをいただきましたことを、高い所からではございますが、厚く御礼申し上げまして、私の説明を終わりにしたいと存じます。ありがとうございました。

(司会)

芳井町の佐藤孝治町長さん、ユーモアたっぷりの説明、大変ありがとうございました。

それでは最後に、山口県山口市の佐内正治市長さん、よろしくお願いいたします。

(佐内市長)

御紹介いただきました、山口市長の佐内でございます。

本日、第9回目のサミットを本市で開催することができまして、あらためて皆様の御協力に感謝申し上げるところでございます。岡山県の佐藤芳井町長さんの名調子の後でちょっとハンディがありますが、それと併せまして時間もだいぶ押してまいりまして、皆様お疲れだと思いますが。

実は平成4年にやりました3回の時も時間がだいぶ押しまして、山口市の紹介を省略した覚えがありますが、今回はまあせっかくですから、ここへ画面も用意しておりますから、ちょっとだけやらしていただきたいと思います。できるだけ簡潔にまいりたいと思います。どうぞ、よろしくお願いしたいと思います。

まず最初に、本市の概要を簡単に紹介させていただきますと、地理的には本州の最西端、山口県のほぼ中央に位置しております。

山口市のまちづくりの考え方でございますが、昨年度に策定いたしました、平成２２年を目標といたしました第５次山口市総合計画に掲げておりますが、ここに掲げておりますように「新しい自分と出会い、自分らしい生き方を実現できるまち」と、これを目標に掲げております。

と申しますのは、非常に価値観が多様化しておりますから、それぞれの生き方が違うわけでございます。したがいまして、それぞれの市民の皆様が、自分の生き方を見つけ、そして、いわゆる選択肢がたくさんある、そういうまちにいたしたい。そして、それが実現できるまちにいたしたいという目標でございます。

これを基本目標に掲げておりまして、５つの戦略と１２のプロジェクトを掲げまして、市政を進めておるところでございます。

人口は年々増えておりまして、だいたい毎年１０００人増えてきておりまして、この度の国勢調査では１４万人を突破をいたしたところでございます。県庁所在地としては、全国で一番人口の少ない県庁所在地でございますが、山口県の県都として行政、教育、文化の中心的役割を果たし、今後、市民の多様な欲求に応えられる中核都市づくりをめざしているところでございます。

次に、特産品についてでございますが、今、芳井町長さんから大変、ゴンボウの話がございましたが、山口市の特産品につきましては、雪舟も暮らしました六百余年の前の大内氏の時代から脈々と受け継がれております歴史、あるいは伝統を基礎としたものがたくさんございまして、この画面にもございますように、当時から伝わっております大内塗り、あるいは山口萩焼は萩から来たものでございます

けれども、山口萩焼、あるいはお菓子の外郎といったものがございます。

また、観光名所・旧跡につきましても同様に、雪舟の活躍いたしました大内氏の時代の華やいだ大内文化にゆかりのある名所、旧跡が多いのが特色でございます。また一方、最近では、画面右の下の方にありますように、巨大なパラボラアンテナがあります山口衛星通信所、その他宇宙通信の施設が４つばかりございますが、地震が少なくて、電波の状況もいいと、あるいは天候も安定しているという本市の自然環境から設置されたと聞いておりますが、４つの宇宙通信施設がございます。また、自然にも恵まれておることも特色と考えております。

このように、自然、文化、都市といった機能がうまく混ざり合って、バランスよく存在しているところに本市の魅力があるものと考えまして、こうした環境の中で、新しい自分と出会い、自分らしい生き方を実現できるまちということを本市のまちづくりの目標として掲げておりまして、施策を実施しているところでございますが、代表的な主要事業としては、都市、歴史文化、自然を生かした御覧の事業がございます。

特に、上から３行目にあります中園文化施設建設事業は、平成５年に策定いたしましたやまぐち情報文化都市基本計画に位置づけ、本市の情報文化の拠点地区の形成を図るうえで最重要プロジェクトとしておりまして、施設名を新たに「山口情報芸術センター」というふうに、ここに掲げておりますように名付けて、平成１５年の秋にオープンをする予定で、ただいま建設工事が進められております。

この山口情報芸術センターでは、市民の創造性を培う様々な事業を展開していくことといたしておりまして、ちょうど雪舟が生きた時代には、山口は「西の京」と呼ばれ、雪舟をはじめとした多くの文化人の往来や、海外交易を通じました西洋文化の伝来がありまして、活発な文化交流が行われていたと言われております。まさに、この山口情報芸術センターは、こうした文化の交流を通じまして、新しいものの見方や感じ方を体感していただき、新しい価値を生み出していこうとするものでございます。現在はプレイベントといたしまして、内外からアーティストを招きまして、市民との共同による様々な創作活動を展開いたしているところでございます。

さて続きまして、本市の雪舟との関わりでございますが、歴史的には先ほど何度も登場しております大内氏の時代に遡ります。当時、山口を本拠に西日本で強大な力を持っていた大内氏は、中国との交易により、経済的に裕福でした。したがいまして、さらに京文化に憧れた大内氏は、芸術文化にも精通していたと言われておりまして、雪舟は１４６１年、大内氏を頼って山口を訪れまして、大内氏は雪舟を厚くもてなし、１軒のアトリエ「雲谷庵」を与えたことは、先ほどのお話にもございました。

念願かなった雪舟は、大内氏の庇護を得まして、中国への修行の旅を果たし、帰国後、本日御参会のゆかりの地、大野町、川崎町、総社市、益田市、芳井町などへ漂泊いたしまして、中でもアトリエであります雲谷庵のある山口で長く創作活動を行ったとされておるところでございます。国宝となっております「四季山水図」も山口で完成させたというふうに言われておるところでございます。

現在、ゆかりの地として市指定史跡でございます雲谷庵跡や、国指定史跡名勝の常栄寺雪舟庭は観光地として親しまれておるところでございます。雲谷庵跡は雪舟のアトリエ、雲谷庵があったとされる所でございまして、ただいまこの写真に出ております建物は明治１７年に復元されたものでございます。

また、この写真に出ております常栄寺にあります雪舟庭は、２９代大内政弘の命を受けまして、雪舟が造ったものと言われております。岩と水の素材を生かした、禅宗の考え方によって造られた庭は、単純な中にも力強さを秘めた庭園として有名でございます。私も約３０年間、ここの座禅堂で座禅をさせていただきましたが、なかなか悟りが開けないということが分かったのが悟りかと思っております。

次に、雪舟にちなんだ取り組みということでございますが、雪舟を語るには切り離せないのが、大内文化を生かしたまちづくりということでございます。こちらに御紹介しております大内氏が２００年にわたりまして守護所として、大内館跡のある本市の大殿地区の市民主体のまちづくりでございます。この大殿地区は、大内氏が京都を模したまちづくりを行ったとされる名残があちこちに残っており

まして、賀茂川に見立てました一の坂川、そして、なになに小路、大殿大路とか竪小路とか、こういう地名など、これらは決して目に見える歴史的建造物や古い町並みがそのまま残っているというわけではございませんけれども、まち全体に歴史を忍ぶ雰囲気をかもし出しております。その雰囲気が最高潮に達するのが、今から紹介をいたしますアートふる山口が行われる２日間でございます。

ここに掲げておりますが、市民の企画運営で始まりましたこのイベントも、今年で６回目を迎えます。文化、芸術をこよなく愛した大内氏、その華やいだ文化の雰囲気がまち全体に広がります。雪舟もこうした雰囲気の中で山口に根を下ろし、創作活動に勤しんだのではないかと思いを馳せるほどでございます。

私は、文化のまちづくりとは、市民が思いをひとつにして、文化的な雰囲気を日常生活に取り込むことだと考えております。そうしたことから、この市民主体のイベントはすっかり山口の秋の風物詩として定着してきておりまして、大内文化をはじめとした歴史の佇まいを残すまちといった雰囲気づくりを市民自らが行っておりますことから、まさに文化を生かしたまちづくりの原点であると考えております。

市政をあずかる私としては大変心強く感じておるところでございますが、そこに風景の写真が出ておりますが、今年のアートふる山口は、文化の日の１１月３、４日の２日間で開催される予定になっております。どうぞ、近県からもたくさんのお客さんがお出でになりますが、皆さんもお足をお運びいただければ幸いに存じます。

さて、時間も押してまいりました。最後に、山口きらら博及びクロード・モネ展について簡単にここで宣伝をさせていただきます。

７月１４日から９月３０日までの７９日間、隣の阿知須町のきらら浜で「元気の国やまぐち」をテーマに開催されております。先日、入場者がすでに１００万人を突破しておりますが、この山口きらら博に本市では「ロマンチック時遊シアター」と称しまして、単独のパビリオンを出展をいたしております。こちらも先日、入場者がすでに１０万人を突破しておりまして、すでに１５万人ぐらいいっていると思いますが、多くの方に山口市の過去から現在、そして未来へ託されたメッセージや魅力が伝わったのではないかと確信しているところでございます。

また、クロード・モネ展につきましても、この山口市の県立美術館で開催されておりまして、光の画家、あるいは印象派の巨匠として世界的人気を誇るクロード・モネでございますが、この作品を、日本初公開を含め六十数点の展示を行っております。７月５日から９月３０日まで開催されております。こちらの入館者数もすでに１０万人を突破しております。どうぞ、ぜひ皆様方も御覧いただければと御案内申し上げまして、私の報告を終わらせていただきます。

大変、時間が押しておりますところをお聞きいただきまして、どうもありがとうございました。

（司会）

山口市の佐内市長、どうもありがとうございました。

これで一通りサミット参加自治体の紹介並びにＰＲが終了いたしました。それでは、この後ディスカッションへ移りたいと思います。準備をさせていただきますので、今しばらくお待ちくださいませ。

(司会)

それでは各市長さん、町長さんは、あらためましてステージにお上がりいただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

それでは時間の方がだいぶ押し迫ってまいりましたので、皆様にはここで参加自治体間での共同の取り組みに関する新規提案を採択していただきたいと存じます。ここからの進行は、今回引き受けとなりました、山口市の佐内市長さんへお願いしたいと思います。佐内市長、よろしくお願いいたします。

(佐内市長)

はい。

ご紹介いただきました、山口市長の佐内でございます。ただいま、参加各自治体の市長さん、町長さんより、各町の概要、並びに近況報告などをいただいたところでございます。大変興味深いお話などたくさんありましたけれども、時間が限られておりますので十分な報告ができなかった面もあろうかというふうに思います。

時間の関係でそういう状況になりましたが、ご了解をいただければと思っております。

さて、近況報告についてご意見などうかがうところでございますが、時間がだいぶ押しておりますので、共同で取り組む新規提案についてご審議をいただきたいというふうに思っております。

共同の取り組みにつきましては、先般の、一昨年行われました、益田市で開催されましたサミットでは「雪舟サミット及び構成自治体紹介のパンフレットの作成」、あるいは「各市町のホームページのリンク」「自治体間の職員の相互派遣交流」の３点が採択されたというふうにうかがっております。まだ未完のものもございますが、共同の取り組みとして成果を挙げておるところでございます。

この度のサミットでは、先に事務局におきます事前協議で基本的な了解を得ているものでございますが、雪舟サミット公式ホームページの開設を提案いたしたいと考えておるところでございます。内容は、第１回目からのサミット宣言などを掲載をいたしました雪舟サミット開催状況や、共同の取り組み状況を総括してインターネット上に公開をいたしまして、広く全国へ情報発信し、新たな交流の輪を広げていこうとするものでございます。すでに参加自治体におかれましては、ホームページを開設され、サミットはもとより雪舟に関する情報も発信しておられると存じますが、これらのページともリンクによりまして、雪舟に関する情報を総括集約したページづくりをめざすものとなると考えております。こういう考えでおりますが、何かご意見がありましたらお願い申し上げたいと思います。

ないようでございましたら、提案を了承いただきまして、今後、事務局で具体化に向けて協議を進めていくということでよろしゅうございましょうか。

〔「はい、結構です」の声あり〕

ありがとうございました。

それでは、そのように、この提案を了承いただきましたので、今後、事務局におきまして具体化に向けて協議を進めていくということにさせていただきたいと思います。

続きまして。

(司会)

新規提案が採択されましたところで、サミット宣言とまいりたいと思います。サミット宣言は、参加自治体間の共同宣言として、今回のサミットで宣言されるものでございます。

それでは、引き続きまして佐内市長、よろしくお願いいたします。

(佐内市長)

はい。

いよいよ２１世紀という新世紀を迎えましたが、新たな

世紀を迎えてもはるか数世紀前に雪舟が刻んだ足跡が消えることなく、ゆかりの地のこの住民の方々の強固な絆を生み、ただいま採択されました新規提案をはじめ、様々な取り組みによりさらなる交流を築いていくことと確信をいたしております。

それでは、開催地ということで私から宣言をいたします。サミット宣言につきましては、お手元の資料に案が載っておると思います。お手元の資料の１０ページに載っておりますから、ご参照いただきたいと思います。私から提案いたします。

〇雪舟サミット宣言

雪舟の偉大な足跡は、はるかに続く歴史の中に残され、その芸術だけでなく人生も永遠に語り継がれている。大内文化華やかなりしころ、雪舟は各地を漂泊、山口の地にも滞在し、独自の世界を究めていった。立ち寄った土地土地には、彼の名前が刻み込まれている。

そのゆかりで結ばれた自治体が集い、雪舟文化の下に友好と理解を深め、それぞれの魅力あるまちづくりに生かしていくことは、誠に意義深いことである。

よって、ここに関係市町がこれまで築いた友好・親善の絆を確固たるものとし、次代につなげるとともに、多方面に新たな交流の輪を広げるため、魅力ある情報発信に努めていくことを宣言する。

平成１３年８月３０日　第９回雪舟サミット参加自治体交流会議

以上でございます。

（司会）

ただいま開催地であります山口市、佐内正治市長からサミット宣言の方、読み上げていただきました。本日、ご参加いただいております参加自治体の首長様には、ただいまの宣言にご賛同いただけるのであれば、ご署名をしていただきたいと思います。よろしいでしょうか。

それでは、これから回させていただきますので、それぞれ署名の方をよろしくお願いいたします。

〔署名中〕

それでは、皆様よりご署名がいただけました。それでは佐内市長、宣言をご披露いただけますでしょうか。

失礼いたしました。佐内市長の署名が最後にございます。失礼いたしました。

それでは、皆様からのご署名がいただけました。宣言をご披露いただけますでしょうか。

（佐内市長）

それでは、サミット宣言を読み上げます。

〇雪舟サミット宣言

雪舟の偉大な足跡は、はるかに続く歴史の中に残され、その芸術だけでなく、人生も永遠に語り継がれている。大内文化華やかなりしころ、雪舟は各地を漂泊、山口の地にも滞在し、独自の世界を究めていった。立ち寄った土地土地には、彼の名前が刻み込まれている。

そのゆかりで結ばれた自治体が集い、雪舟文化の下に友好と理解を深め、それぞれの魅力あるまちづくりに生かしていくことは、誠に意義深いことである。

よって、ここに関係市町がこれまで築いた友好・親善の絆を確固たるものとし、次代につなげるとともに、多方面に新たな交流の輪を広げるため、魅力ある情報発信に努めていくことを宣言する。

平成１３年８月３０日

第９回雪舟サミット参加自治体交流会議

大分県大野町　後藤欣明

福岡県川崎町　小田幸男

福岡県総社市　竹内洋二

島根県益田市　牛尾郁夫

岡山県芳井町　佐藤孝治

山口県山口市　佐内正治

以上でございます。おめでとうございます。〔拍手〕

(司会)

それでは、サミット宣言が採択されました。各首長の皆様、その場でご起立いただき、皆様で握手をしていただけますでしょうか。

どうぞ、カメラをお持ちの皆さん、どうぞ前の方へお進みくださいませ。

〔拍手〕

サミット宣言は、無事採択されました。

どうもありがとうございました。それでは最後に佐内市長、よろしくお願いいたします。

(佐内市長)

どうもありがとうございました。採択されましたサミット宣言にしたがいまして、今後ともサミット構成市町のみならず、各方面に新たな交流の輪を広げていくように、皆様共々努力してまいりたいと存じます。

(司会)

さて、続きまして、次回開催地への引き継ぎについてでございます。こちらも引き続きまして、山口市の佐内市長、よろしくお願いいたします。

(佐内市長)

次回開催地につきましては、これまでの順番でまいりますと福岡県の川崎町さんとなりますが、他の市町の皆様、ご異議ございませんか。

〔「ありません」との声あり〕

「異議なし」という声がございました。では、次期開催地は、福岡県川崎町と決まりました。ありがとうございました。

(司会)

皆様、大変ありがとうございました。ご苦労様でした。

それではここで、次回開催地の福岡県川崎町へ山口市からサミット旗の引き継ぎを行いたいと思います。それでは前の方へお進みいただけますでしょうか。

〔サミット旗引き継ぎ〕

〔拍手〕

無事、サミット旗の引き継ぎが完了いたしました。それでは、川崎町の元永助役さん、次回開催地ということで、一言ご挨拶をいただけますでしょうか。よろしくお願いいたします。

(川崎町)

ただいま正式に、次回開催が川崎町ということに決定がされました。ありがとうございます。

次回は、本日、各サミットの市長さん、町長さんにお願いをしまして、本来ならば2年後ということのようでございましたが、国民文化祭が福岡県で２００４年に行われます。その折りに川崎町としましては、県と共同と言いますか、協力をして、水墨画を国民文化祭の中で取り入れ、また、このサミットをなお一層盛り上げたいと、そういうふうに考えております。

本日はまた、先ほどもちょっと報告をさせていただきましたが、町の方からも多数の雪舟さんの顕彰会のメンバーの皆さん、また議長をはじめ議員２名の方も見えております。そういうことで、議会を挙げて、また我々総力を挙げて取り組みをしたいと思っておりますので、よろしくお願いをしたいと思います。本当にありがとうございました。

(司会)

元永助役さん、どうもありがとうございました。

それでは、以上をもちまして、サミット会議並びに第９回雪舟サミット初日の公式日程を終了とさせていただきま

す。ご来場の皆様、ご協力、誠にありがとうございました。

皆様、大変お疲れ様でした。ありがとうございました。